

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                             |    |        |           |
|----------------|-----------------------------|----|--------|-----------|
| ○事業所名          | 児童発達支援 放課後等デイサービス ポニーナJR津田沼 |    |        |           |
| ○保護者評価実施期間     | 令和7年9月15日                   |    | ～      | 令和7年11月1日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)                      | 23 | (回答者数) | 16        |
| ○従業者評価実施期間     | 令和7年9月15日                   |    | ～      | 令和7年11月1日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)                      | 8  | (回答者数) | 8         |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年11月13日                  |    |        |           |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること                        | 工夫していることや意識的に行っている取組等                                                                            | さらに充実を図るための取組等                                                              |
|---|-------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 保護者からの事業所に対する満足度が高く、利用者（児童）達も楽しく快適に事業所内を過ごしたり、支援を受けたりすることが出来ている点。 | その日のスケジュールを視覚的に把握しやすくし、自由遊びの時間、お片付けの時間、活動の時間を設け、行動や気持ちを切り替える場面を設定している。                           | 職員のスキルアップの為、各自治体等が主催する発達障害に関する知識の取得や事例検討会等の研修に積極的に参加していく。事業所内での情報交換を積極的に行う。 |
| 2 | 集団療育のプログラムを内容が固定化されないように計画的に取り組んでいる点。                             | 朝礼で職員の人数と利用児童の人数を見て、バランスの良いプログラム内容を立案している。また、過去に実施したプログラムを記録して保存することで、各プログラムの実施サイクルを把握するようにしている。 | 児童それぞれの特性、課題に合わせたプログラムの実施等、オリジナル性の高いプログラムを立案することで、さらなる充実化を図っていく。            |
| 3 | 保護者との連絡を密にし、利用者（児童）の様子を詳細に伝えられている点。                               | 送迎時等で保護者へ説明するべき事項が生じた場合は確実に行う。もし失念した場合は、電話やメッセージをその日のうちにを行う等の取り組みに努めている。                         | アプリのメッセージ機能、電話でのやりとりを通じて、丁寧に信頼関係を築いていく。                                     |

|   | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること      | 事業所として考えている課題の要因等                                                                            | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                                                         |
|---|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 事業所内の訓練室等の部屋のスペースが狭い為、集団療育等を実施する際に窮屈に感じることがある点。 | 部屋の敷地面積に対して、1日あたりの利用者（児童）と職員の人数のバランスがやや保てない部分があると考えられる。                                      | 机・テーブルを畳んで空間を確保。収納スペースも工夫し、狭いと感じさせないような空間作りをしていく。                            |
| 2 | 緊急時の対応に関して、避難訓練等の実施状況について、各家庭に対し、周知されていない点。     | イベント表を活用し、各家庭へ避難訓練の実施を告知していたが、詳細の報告は参加している児童の家庭のみとなっていた。その為全家庭へ緊急時の対応、訓練の実施状況について周知できていなかった。 | ホームページやアプリを使用し、全家庭へ周知していく。実施の状況を文書等で公開し、全家庭に報告するように努める。                      |
| 3 | 保護者会、父母の会、きょうだい同士の交流の機会が希薄。関連情報の提供も消極的である点。     | 関係機関との連携が薄く、得られる情報が減り、情報提供の機会が少なくなっている要因と考えられる。                                              | アプリ、連絡帳等を活用し情報提供していく。送迎時やモニタリングなど児童の様子を伺う機会に、各家庭のニーズを把握し、交流する場を作れるように検討していく。 |